

北海道博物館協会
学芸職員部会ニュース
【第90号】

2018（平成30）年8月31日 発行

平成30年度北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会の開催

博物館のまちづくりへの貢献が期待される今日、博物館活動の根幹をなす基本的な技術・素養はもちろんのこと、専門分野以外の基礎・基本を身に付けることも要求されている。本研修会は、文部科学省の「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」の委託を受けた国立科学博物館と連携し、博物館活動で求められる基本的技術とそれに基づく応用力をつける契機とし、私たち学芸員が互いに学び合いながらスキルアップすることを目的に開催する。

会 期 平成30年9月28日(金)～29日(土)
会 場 美幌町民会館（網走郡美幌町字2条北4丁目9番地）[9月28日]
美幌博物館（網走郡美幌町字美禽253-4）[9月29日]
主 催 北海道博物館協会・国立科学博物館
主 管 北海道博物館協会学芸職員部会
後 援 網走管内博物館施設等連絡協議会・美幌博物館

1日目：9月28日

【研修会】（13:15-16:05）会場：美幌町民会館 3階中ホール

例年、部会会員の学芸員同士がそれぞれ実践してきた技術を教え合う研修会を目指して開催してきましたが、今年は国立科学博物館と連携したレガシー事業として開催するため、専門家による座学と実践の形式をとります。多くの館園では、いかに適切に資料を保存する環境を整えるか、苦勞していると思います。生物被害について学び、小規模な館園でも実践でき、資料への被害を抑えられる方法を習得します。また、剥製の取り扱いについて学び、持ち込まれた死骸から剥製にするために注意する点や、剥製のポーズを変更する方法などを実習します。

はじめに 研修会の趣旨と流れ（13:15-13:20）

研修テーマ「資料の取り扱いと修復について」

①座学1「剥製の取り扱い～主に鳥類標本を例として～」（13:20～14:35）

講師 岩見 恭子 氏（山階鳥類研究所）

剥製資料の基本的な取り扱いについての研修

EX)剥製制作から保存までの流れ、標本づくりのコツ、適切な保存環境についてなど

②座学2「博物館資料の生物被害と文化財 IPM（総合的有害生物管理）について」

（14:50～16:05）

講師：佐藤 嘉則 氏（東京文化財研究所）

収蔵資料の劣化を招く生物被害についての研修

EX)北海道のような寒冷地で考えられる生物被害について、地方館園で可能な文化財 IPM

【総会】（16:15-17:30）会場：美幌町民会館 3階中ホール

【情報交換会】（18:30-20:30）会場：肉の割烹田村（網走郡美幌町大通北 4）

2日目：9月29日

【実技研修：選択制】（9:30-12:00）会場：美幌博物館

①剥製の修復と保存

剥製の修復と保存技術についての研修

EX)剥製の洗浄方法、カビの除去方法、ラベルの取り付け方など

②文化財害虫の同定と殺虫実習

文化財害虫の紹介とその同定についての研修。

EX)文化財害虫はトラップ調査の実例、ATP 測定など

北のミュージアム紀行 ～その7～

第7弾となる北のミュージアム紀行は、2018年7月14日にオープンしたばかりの赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設です。

赤平市は炭鉱最盛期には約6万人もの人口があり、22もの炭鉱が操業していました。その中でも茂尻の雄別炭礦茂尻砒、市街地の北海道炭鉱汽船赤間砒、昭和電工豊里炭砒、住友石炭鉱業赤平炭砒という4つの大きな炭砒がありました。

この施設の展示資料は住友赤平炭砒関連が中心となっています。旧住友赤平炭砒立坑櫓見学の拠点と炭砒器具や図面、映像などによる展示資料館の機能を併せ持ち、ミュージアムショッ

プとカフェも併設しています。元炭砒マンによる立坑櫓や自走榨工場のガイド、器具類の立体的な展示と、全国的にも珍しい巨大な縮尺千分の一の坑内実測図、ホール中央から見上げる立坑櫓の眺望が一押し of 新しい館です。



場所は赤平駅の裏側住友赤平炭砒立坑櫓を目指してくると隣りにあります。入館料無料ですが、立坑櫓などのガイド付き見学参加は有料で、市外からの方は大人1名800円・小学生1名300円。午前10時からと午後1時半からの1日2回行われています。前半の立坑櫓の見学は50分程度、後半の自走枠工場は30分程度、自家用車等での移動時間を含め全体として約1時間半のコースです。前半のみの参加も可能です、とのこと



この施設には赤平市教育委員会社会教育課文化財保護係の井上博登学芸員が常駐しています。井上さんは元々は文化人類学が専門で、長崎県の端島炭砒（軍艦島）や赤平の炭砒社会・生活の研究をされていました。施設の北海道博物館協会への登録や学芸職員部会への参加もしていきたいそうです。「学芸員としては初心者ですが、よろしくお願ひします」とのことでした。

北海道で一番新しいできたてホヤホヤの赤平市炭砒遺産ガイダンス施設。立坑櫓の見学ツアーや展示されている坑道を網羅した実測図は本当に圧巻ですので、ぜひ一度見に行ってみると良いですよ。（斎藤和範 記）



【赤平市炭砒遺産ガイダンス施設】

お問合せ：0125 - 74 - 6505

開館日：水曜日～日曜日（土日祝営業）

休館日：月曜日・火曜日（祝日の場合は翌平日。その他臨時休館有り）

開館時間：9：30～17：00（入館は16時半まで）

入館料：無料（ガイドは有料）

場所：赤平市字赤平485番地（旧住友赤平炭砒立坑西側）

アクセス：駐車場有、JR赤平駅からは徒歩で10～15分程度

新入会員紹介

小坂みゆき（ニセコ町集落支援員・有島記念館学芸員）

みなさんこんにちは。平成29年4月からニセコ町・有島記念館でお仕事をするようになりました小坂みゆきと申します。これまで、北海道大学専門研究員を務めておりました。私の専門分野は文化人類学です。主に調査を行ったのは中国吉林省です。朝鮮族を対象に、彼らと生活を共にしながらフィールドワークを続けてきました。ニセコ町では、集落支援員として、また学芸員として有島記念館所蔵の旧有島農場関連資料の調査、有島地区に今も残る「有島灌漑溝」などの地域遺産についての調査を通して、それらの文化的価値を見出して広く発信していきます。また建築士の資格を生かして、町内の歴史的な建築物の調査もしてみたいです。このほか、館の企画展や音楽普及事業などの博物館活動に取り組み、町民の人に親しんでいただける記念館を目指しています。現在のニセコエリアは、さまざまな文化背景を持つ人たちが国内外から観光に訪れ、あるいはニセコを拠点として生活しています。今までの海外での調査経験を生かし、中国でも読まれている有島作品の魅力や記念館に収蔵される藤倉英幸先生の風景画の魅力を海外に紹介することで、より多くの人たちに記念館や有島の存在を知ってもらえるよう努力します。

編集後記

平成30年9月5日に北海道を襲った台風21号、翌6日未明に発生した「北海道胆振東部地震」、そしてそれに続く電気供給の「ブラックアウト」。本学芸職員部会会員が所属する各館の運営にも大なり小なりの影響が発生したことと思われます。北海道には学芸員が1人しか配置していない小規模館が多数あります。災害を受けた資料の修復など対応など傍に相談する学芸員がいない館は、部会会員同士の横のつながりが生きてくるのではないのでしょうか。これからも総会などを通してつながりを深めていきたいものです。

北のミュージアム紀行は随時記事を募集しています。最近リニューアルした施設やこれから予定している施設の方、取り上げてみたい資料館の紹介などありましたら、編集担当までご連絡ください。

学芸職員部会では入会も随時受け付けております。会員の皆様には職場内や近隣市町村でまだ会員になっていない方がいれば、お誘いいただきますようよろしくお願いいたします。
(D・I)

北海道博物館協会 学芸職員部会ニュース 第90号

発行日 2018年8月31日

編集 齋藤 和範（北海道教育大学旭川校）
伊藤大介（ニセコ町有島記念館）

発行者 北海道博物館協会学芸職員部会

〒049-3106 北海道二海郡八雲町末広町154番地 八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
TEL 0137-63-3131 FAX 0137-64-3848

北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

学芸職員部会ホームページ <http://www.hk-curators.jp/>

学芸職員部会入会申込案内 <http://www.hkma.jp/hkcurators-recruit>